

「2019年3月期 第3四半期決算 電話説明会」シナリオ

「2019年3月期 第3四半期決算 補足資料」をもとに説明いたしましたので併せてご覧ください。
お手元がない場合は、お手数ですが当社IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ja/ir>

- ・実施日 2019年1月30日(水)
- ・説明者 執行役員(経理部担当役員) 霜田 朝之

【連結業績】

2019年3月期第3四半期決算の実績について説明いたします。

当四半期は、前年同期と比較して、

売上高は、 351億円、 9.6%増の 3,996億円

営業利益は、 133億円、 14.3%増の 1,067億円

経常利益は、 126億円、 13.3%増の 1,073億円

親会社株主に帰属する四半期純利益は、49億円、7.1%増の743億円となりました。

【第3四半期業績の推移】

左側のグラフは、棒グラフが売上高、折れ線グラフが営業利益率を示しています。

右側のグラフは、四半期別の営業利益の推移を示しています。

当第3四半期の売上高、営業利益は過去最高の実績となりました。

【セグメント別の売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因を説明いたします。

①テーマパーク事業

売上高は、テーマパーク入園者数、およびゲスト1人当たり売上高が増加したことなどにより、前年同期比317億円、10.5%増の3,328億円となりました。

入園者数およびゲスト1人当たり売上高については、1つ下の表「(2) テーマパーク関連情報」をご覧ください。

入園者数は、東京ディズニーリゾート35周年イベントの好調により、前年同期を上回りました。ゲスト1人当たり売上高は、東京ディズニーリゾート35周年イベント関連商品販売の好調や、レストランにおいて、より多くの喫食機会を提供したことが奏功し、前年同期を若干上回りました。

②ホテル事業

売上高は、東京ディズニーリゾート35周年イベントの好調により宿泊収入が増加したことなどから、前年同期比46億円、9.2%増の551億円となりました。

③その他の事業

売上高は、イクスピアリ事業の直営飲食店舗売却の影響などにより、前年同期比12億円、9.5%減の117億円となりました。

【セグメント別の営業利益】

セグメント別の営業利益その増減要因について説明いたします。

④テーマパーク事業

東京ディズニーリゾート35周年イベント関連費用や業績賞与の計上などにより費用が増加したものの、売上高が増加したことなどから、前年同期比112億円増の893億円となりました。

⑤ホテル事業

業績賞与の計上などにより費用が増加したものの、売上高が増加したことなどから、前年同期比17億円増の150億円となりました。

⑥その他の事業

前年同期比3億円増の22億円となりました。

【総括】

総括をさせていただきます。

対前年同期

当四半期実績を前年同期と比較いたしますと、売上高、営業利益ともに前年を上回りました。売上高については、東京ディズニーリゾート 35 周年イベントが好調に推移し、テーマパーク事業の入園者数およびゲスト 1 人当たり売上高が増加したことなどにより、増収となりました。営業利益については、東京ディズニーリゾート 35 周年イベント関連費用などが増加したものの、テーマパーク事業およびホテル事業において増収となったことなどにより、増益となりました。

対期初予想

当四半期実績を業績予想と比較いたしますと、売上高、営業利益ともに予想を上回りました。ゲスト 1 人当たり売上高はほぼ予想通りとなったものの、テーマパーク入園者数が予想を上回ったことにより、売上高および営業利益が業績予想を上回りました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期における子会社の税効果の影響などが無くなったものの、営業利益が前年同期、業績予想とともに上回ったことにより、前年同期および業績予想を上回りました。

通期業績予想

当四半期は説明したとおり推移したものの、現時点では通期の業績予想を据え置くことといたします。

以上